



明日は体育会結団式

本年度、第38回体育会を5月19日(日)に実施する予定です。明日、5月2日(木)には体育会の結団式とブロック発足会があります。4月の中旬ごろから、放課後には体育会リーダーの勇ましいかけ声が響き渡り、学校全体としても、朝の挨拶や授業開始と終わりの挨拶の音がだんだん大きくなってきました。



体育会は、異学年の集まりである各ブロックが勝利を目指し、集団として高まっていくことに価値があります。たとえその過程でリーダーどうしやリーダーとフォロワーがぶつかり合ったりすれ違いが生じたりすることがあったとしても、それは人としての大きな「学び」だと思っています。

また、場に応じて集団で規律ある行動を取ること、リーダーとフォロワーが限られた時間の中で協力し合って演技を創りあげていくことなど、体育会練習でしっかりと鍛えられることで育まれる力があります。職員も子ども達の様子を観察しながら個に応じた対応を取るよう努めて参りますが、子ども達はその厳しい練習を乗り越え、思う存分力を発揮できた時には、皆が大きな充実感と達成感を味わうことができると信じています。ご家庭におかれましても、食事や睡眠などにご配慮いただき、全学年で動くこの行事を通して、子ども達の成長を見守っていただけたらと思います。

ある研究から思うこと(「考える時間」について)

このところAIの研究が進み、「そんなことまでAIがやるのか」と驚かされることが少なくありません。ある記事に東京大学薬学部の池谷裕二教授の2つの研究が掲載されており、大変興味深い内容でしたので、それらを要約して一部紹介したいと思います。



< AIの研究から >

「学びのチカラ e-na 中学校版」教育出版 令和6年4月17日発行より

- ・ AIがうまく学ぶための秘訣と人がうまく学ぶための秘訣は、かなり似ている。
- ・ AIにあまりにも早く学習させようとすると与えられた情報をまる暗記する傾向になり、物事の本質に至らない。
- ・ 飛躍的に学習精度を上げるには、「定着するための時間」を設けることが重要である。

< 迷路に放ったネズミの実験から >

- ・ 迷路の分かれ道に来たとき、すぐ判断せずにじっくり考えたほうがうまく学習できる。
- ・ じっくり考えて正解したときと、じっくり考えたけれど失敗してしまったときでは、失敗したときのほうがうまく学習できる。
- ・ 10日間で迷路を覚える場合、1日目か2日目にたくさん失敗するほど成績が良く、逆に最後のほうに失敗が多いと成績が下がる。

人には、学び方の得意・不得意があると思います。この池谷教授の研究からは、「あまりにも短時間で学ぼうとすると、その本質には至ることは難しいこと」「家庭学習としてその日の授業内容を復習するような時間を設け、学びを定着させることが大切であること」がわかります。また、もう一つの実験にあるように、じっくり考えたのに間違えた場合は「なぜ間違えたのだろう」と、もう一度考えるはずですが、たまたま正解してしまうと、安心して復習しないことが多いでしょうから、初期の段階でたくさん間違えたほうが学習としては良いということなのです。

あるノーベル物理学賞受賞者がこのようなことを言っています。『エキスパート(専門家)の定義とは、ごく限られた分野でありとあらゆる間違いをすべて経験した人物のことだ。』このことは単に勉強だけにとどまらず、スポーツや習い事など技能の向上にも通じるものだと思っています。間違えることや失敗することは悪いことではない。学びのためには、たくさん間違えたり失敗したりする経験が必要なのです。